

1 研究主題

「生徒全員が学ぶ喜びを感じる学習指導」
～協同的な学びを通して、自己の目標が達成できる指導の在り方～

2 研究仮説

次のような視点から、生徒一人ひとりに効果的な学び方を身につけさせ、自分なりの目標や考えを持ち、伝え合い、聴き合い、協力して問題の解決や探究活動を行う学習活動を充実させる（かかわりを促す働きかけをする）ことにより、クラス全員が協同的な学びに参加し、自分（たち）の高まりや目標達成の満足感、達成感を感じることができよう。また、この一連の日々の授業の積み重ねが、思考力、判断力、表現力及び活用力の育成につながるであろう。

- ①生徒が夢中になる課題、目的を明確にした課題づくりの工夫
- ②課題に対して、自分の考えを持たせる工夫
- ③学び合いや話し合いの活動を取り入れた学習方法や学習形態の工夫
- ④まとめの方の工夫（分かったことを自分の言葉＜図や絵、表等＞でまとめ＜言語化＞、本時を振り返る時間の確保）
- ⑤定着を図る小テストの実施、発展課題や次時につながる課題の提示（→家庭学習）

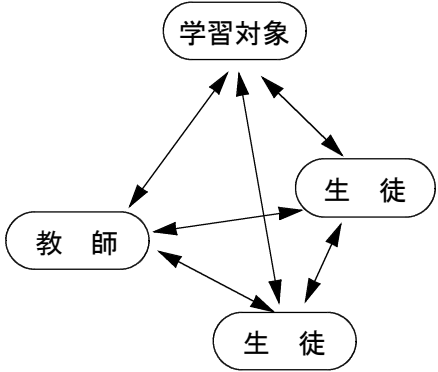
「学び」とは新しい学習対象との出会いによって生まれた疑問や発見を、仲間との対話を通して追究していく過程で、学習対象を自分の中に取り込み、自分の世界を広げていく営みである。

「協同的な学び」は、学習の場面で、人間尊重を重視し、「わからない者」をばかにしたりあやまった発言を嘲笑するものではなく、互惠関係の上に、相互の容認（認め合い学び合う人間関係）と支援を学習過程に造り上げるものであり、仲間と協同して問題の解決や探究活動を行う学習活動である。一人ひとりの学びを成立させるためには、協同的な学びを組織する必要がある。それは学習意欲の高まりにもつながるものである。

3 研究仮説に関わる具体的内容

教師は、知りたい、分かりたいという生徒の欲求を沸き立たせる学習対象（テキスト、教材等）を提示し、生徒と対象をしっかりと「つなぐ」ことである。対象との対話を繰り返して、新たな発見を重ねていく。また、この過程を生徒は仲間との対話を通して経験していく。対象と生徒をつなぐ一方で、生徒と生徒を「つなぎ」、豊かで深い学びが生まれるような対話づくりに努める。

- ＜目指す授業＞
- 1 誰もが学びに参加できる授業
 - 2 誰もがより質の高い学びに挑戦できる授業
 - 3 他者をつなぐことの喜びを分かち合う授業



<教師の働きかけ>

(1) 自分の考えを持つ場面

- ・最終的に何を考えればよいのか(目的)・考えたい(意欲)・考えなければならぬ(必要感)と思われる「課題」の提示、場面や教材を工夫する。
- ・最初に自分で考え、言葉でまとめる時間や場を設定する。
- ・時には仲間と考え合うことで解決していくような、質の高い課題を提示する。

(2) ペアやグループ、フリーで、互いに考えを補い、深め、広げる場面

- ・分からないところをどうしたらよいか、素直に聴けるようにする。
- ・他人が理解できるように説明できるようにする。
- ・他の考えを共感しながら聴き取り、自分の考えを補ったり、広めたりできるようにする。
- ・話し合い活動を通し、他者や他グループの、自分たちとは違った考え方や見方を受け入れながら、問題解決に協同的に取り組むようにする。

※発問(ゆさぶり・問い直し・本当に?)により、学びを推進し、深める。

*生徒が安心できるクラス(グループ)づくりが、他の生徒からの学ぶ姿勢につながる。

(3) 個人または代表者が考えを、分かりやすく伝える、発表する場面

- ・分からないことも含めグループの考えを根拠に基づいて発表できるようにする。
- ・「10」のことを説明したら、学級全員が「10」を分かるようにする。
- ・メモや図に整理して、考えを分かりやすく簡潔に説明できるようにする。

(4) いくつかの発表、考えを、全体で練り上げる場面

- ・比較検討して、いくつかのグループや個人の考えを、ある方向に集約していけるようにする。

(5) 最終的に自分の考えを再構築し、まとめる場面

- ・最初の自分の考えを残しておき、一連の活動で得た情報に基づいて修正し、自分の言葉(図や絵、表等)でまとめ(発表、表現すること)ができるようにする。

(6) 発展的な課題に取り組む場面

- ・より高度な課題に挑戦する。身につけたことを活用する。
- ・家庭における個人学習

4 本年度の具体的研究内容・方法の確認

(1) 学力診断テストや定期テストの結果分析により生徒の学力の実態をとらえる。

(2) 研究の視点について研究授業を行い、参観し合うことにより研修を深め、授業力を養う。

(3) 「学習の手引き」「学習のきまり5カ条」により学習習慣の育成に努める。

(4) 1時間の授業の充実を図る。

① 学習意欲を喚起し、授業が見通せる学習課題の設定

② 自分の考えを持ち、協力して課題解決をめざし、分かったことを表現する展開の工夫

③ 定着を図るまとめの工夫(まとめの工夫、時間の確保、小テストの実施)

④ 授業との関連を図った補充学習や家庭学習の課題を工夫し、基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図る。

(5) 授業実施後の反省と評価の蓄積を図り、改善を加える。